

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 平成 29 年 12 月 1 日から平成 30 年 3 月 16 日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 050542 061163	

2 福祉サービス事業者情報（平成 29 年 12 月現在）

事業所名：飯綱町立りんごっ子保育園	種別：保育所
代表者氏名：管理者 峯村 勝盛 園長 森野 由美子	定員（利用者数）：60 名（59 名）
設置主体：飯綱町 経営主体：飯綱町	開設年月日：平成 14 年 4 月 1 日
所在地：〒389-1222 長野県上水内郡飯綱町大字柳里 467 番地	
電話番号：026-253-1201	FAX 番号：026-253-1202
ホームページアドレス： http://www.town.iizuna.nagano.jp/14/115/137/index.html	
職員数	常勤職員：8 名 非常勤職員：9 名
職員内訳等	保育士：12 名 調理員：2 名 子育て支援員：1 名 常勤職員の平均年齢：42.1 歳 平均在職年数：18.6 年
施設・設備の概要等	乳児室：1 室 ほふく室：1 室 保育室：5 室 調理室：1 室 事務室：1 室 遊戯室：1 室 屋外プール：一面 屋外遊具：鉄棒、ジャングルジム、山型雲梯 総合遊具（大・中）、ブランコ、木製つり橋 ままごとハウス（屋外 2 台、屋内 2 台）、砂場 便所：6 室 園バス：2 台

3 理念・基本方針

<p>○ 運営方針</p> <p>子どもが現在（いま）を幸せに生活し、未来（あす）を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任を持って、自らの人間性と専門性の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、子ども、保護者、地域に最善を尽くします。</p> <p>○ 基本方針</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ひとりを大切に、すべての子どもの発達を保証していきます。・家族としっかり手をつなぎ、共に協力し合って、子どもを育てていきます。・一人ひとりの子どもを職員集団で見守り、発達を確かめ合っていきます。・子どもの年齢や発達の状況に合わせて保育目標を持ち、計画を立て、見通しのある保育を行っていきます。・障がい児保育を進めるにあたり研修し、保育内容の向上に努力します。・地域と深くつながった保育園であることを目指し、未就園児体験入園等を積極的に取り組みます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

豊かな自然に囲まれ、緑のとんがり屋根が目印のりんごっ子保育園は、信州型やまほいく認定園であり、また、地域の子育て支援センターとしての役割もある。
そして、中高生や高齢者との交流など、地域活動事業も盛んである。

その広い園庭は思いっきり遊ぶことができ、プールも設置されている。
園内は広い廊下、各クラスには畳コーナーもあり、ゆったりと過ごすことができる。
また、空き室があることもあり、寝食分離のクラスもある。
そして、個々の育ちを大切にしながら、楽しく遊び、たくさんの経験をし、野菜作りなどの食育にも取り組むなど、身体も心も成長できるよう願い保育をしている。

5 第三者評価の受審状況

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添 1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

- a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
- b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
- c：b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と改善課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

◇ 特に良いと思う点

○ 豊かな保育環境

園の周りはりんご園や田畑が広がり、周囲は自然に囲まれ「信州型やまほいく認定園」として申し分のない環境の中にある。

自然を身近に感じ、遊びの中で好奇心や想像力、自律心が身につく自然体験、また、園内のみでなく、近所の好意による畑を借りての様々な野菜作り、その成長や収穫を通しての生活体験。

これらが「やまほいく」の基本となって、子どもの人生の根っこ作りになっている。

また、利用数は子どもが集団としてまとまりのある年令毎の人数であり、木材を主体とした園舎や園庭は十分な広さで、各部屋は広く、廊下などにも踏み台や椅子の設置もあり、一人を楽しむこともできる。

そして、保育士の手作りの玩具など、さまざまな遊びの素材が用意されて子どもの育ちを支えている。当然、室外遊具も充実している。

さらに、以上児を含めた各保育室には畳スペースがあり、家庭と同じような環境の中で、絵本を読んだり、子ども達が落ち着いて保育を授かる環境である。

クラスによっては、空き部屋を利用しての寝食分離も行われている。

廊下などには、信州型やまほいくの証として、ドングリ・トチノ実・木の葉での創作おもちゃなども展示されており、豊かな自然との触れ合いが子ども達に与える効果も実感できる。

この信州型やまほいくを支えている、地域との連携も見逃せない。

地域住民や老人会との交流も盛んで、花壇の手入れ、畑の種まきや草取り、収穫、また、七夕での笹飾りなどの共同作業、運動会や卒園式への参加の呼びかけも住民が楽しみにしている。

災害時は住民の避難場所の拠点となり、地域防災訓練の際には住民が集合するなど、愛着が持てる地域で支える保育園となっている。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 自律した主体的な質の向上

国の方針等により、保育の内容も年々変わってきている。

養護と教育を一体的に行う、保護者・地域と連携した子育て支援、子どもの最善の利益、子どもの人権の尊重等々、職員一人ひとりの職務と責任の理解と併せて、新しい知識と技術、技能の習得は不可欠である。

学ぶ機会や研修の充実で、現段階の保育内容に適した専門性を身に付ける取り組み、身近では、新しい教育を受けてきた若い保育士から学ぼうとする柔軟な姿勢が、理念である「自らの人間性と専門性の向上に努める」となり、園の保育の質も高まると思われる。

このことは実習生から得られる振り返りと同じといえる。

気がつきがあれば、改善を進めることは今回のプロセスで確認できている。

医務室の整理整頓だけでなく、食育については目的・効果を意識して、当日の献立サンプルの設置場所を変えており、展示することが目的ではない事に気付いたものと感心できる。

担当栄養士とともに、数々の見直しに今後も進むことが期待される。

和食文化を理解した上で、主食・副食などの配膳の理解、箸の正常な持ち方・使用方法、一皿食いの改善、食事時のテーブルマナーなど、意識することで提供する食育の質も向上するはずである。

また、食後のブラッシングにしても現状でよいのかなど、歯科検診とブラッシングを連動させた保育に視点を置くことで、必要な見直しが視えてくる。

開設 15 年を超え、年々、各種書類が蓄積されている。

園日よりや各報告書の綴りなど、保存と廃棄の規定の下に、何のための書類なのか、将来的に活用できるのかなど、視点を变えるだけで書類の整備・整理が進むものである。

アンケートから視えてきたこともある。

保護者等が担任保育士とゆっくり話し合える機会が少なく、特にバス通園や延長保育利用だと直接担任保育士との接点が難しい状況で、不安に感じている保護者がいることも推測される。

園での子どもの様子、子どもに関する相談や要望、園に対する意見や提案、苦情等の把握は、体制と環境を整えることで容易である。

園全体に関する事項はアンケートの実施で把握し、全職員で検討し、改善内容や結果を保護者へ報告、公表することで信頼関係が構築される。

そして、協力的な回答者は結果を知りたいものであり、改善結果等について納得がいくものであれば今後の協力も容易である。

また、保護者等は自分の子どもが園でどのように過ごしたのか、また徐々に成長していく姿を最も知りたいのである。

連絡帳などの生きた活用等、その内容・方法を全員で話し合い実行することで、保護者等の喜びや安心の獲得へと繋がると思われる。

お互いの思いを寄せ合い、一緒に子どもの育ちを考えていくという姿勢は、基本方針である「家庭としっかり手をつなぎ、共に協力し合って子どもを育てていきます」の具現化といえる。

現状の意見・要望・苦情・トラブルに対する解決の仕組みを検証し、全職員へ周知し、課題は何か、最善の策は何かというサイクルが常に回るような仕組みが期待される。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添１）

内容評価項目（別添２）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添３－１）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

より良い保育サービスの実施を目指して、今回初めて第三者評価を受審させていただきました。豊かな自然環境の中で実践している自然型やまほいくを主体に、手作り玩具も含めた自然物を使った遊びや老人会等地域の皆様との様々な交流を高く評価していただいた一方で、改善すべき課題もみえてきました。

保育の専門性、保育実践等をいかに見える化し、保護者の方々に理解していただくかが重要だと改めて感じました。保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、今後は緊急時及び不審者対応等についても家庭へお知らせをし、保護者の方々と連携して子どもの育ちを見ていける安心安全な保育園であることに努めていきたいと思えます。

全職員一同、日々の保育を振り返り、子どもの最善の利益を考えて今後もより良い保育に取り組むべく、話し合いや研修を積み重ね改善していきます。資質の向上を図るとともに、保護者との連携を深め、きがかかりなことや心配なことに対し、いつでも相談できる体制を継続し、子ども達が「保育園大好き!」「また明日も遊びたいな!」と思える園になるよう、今後もより良い保育サービスの提供に取り組んでいきます。

最後になりましたが、評価実施にあたり、丁寧な説明と助言をし、自園の強みと課題を見つけてくださったエフワイエルの皆様にご心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。